

日々の単元を大事にする単元研究会

◇資質・能力の明確化から学習評価まで◇

自分の単元に向き合う時間

研修時間は、自分の日々の単元に向き合う単元研究会

「教員一人一人が自分の授業を考え、日々実践する」ことをコンセプトに、研修日には、毎回10分程度、単元構想におけるポイント等のプチ研修を全体で行なった後、30分程度、グループに分かれ、自分の学級や担当する授業について、単元案等をもとに単元構想を考え、授業の準備する時間を確保した。現在では、その時間に限らず、多くの先生方が単元案にて単元構想をしながら、日々の単元を充実させ、学習評価にも向き合いながら、改善し、実践を行っている。



特別な研究授業に集中するのではなく、日々の単元を充実させ、年間を通して

子供たちの成長、教師の資質・能力

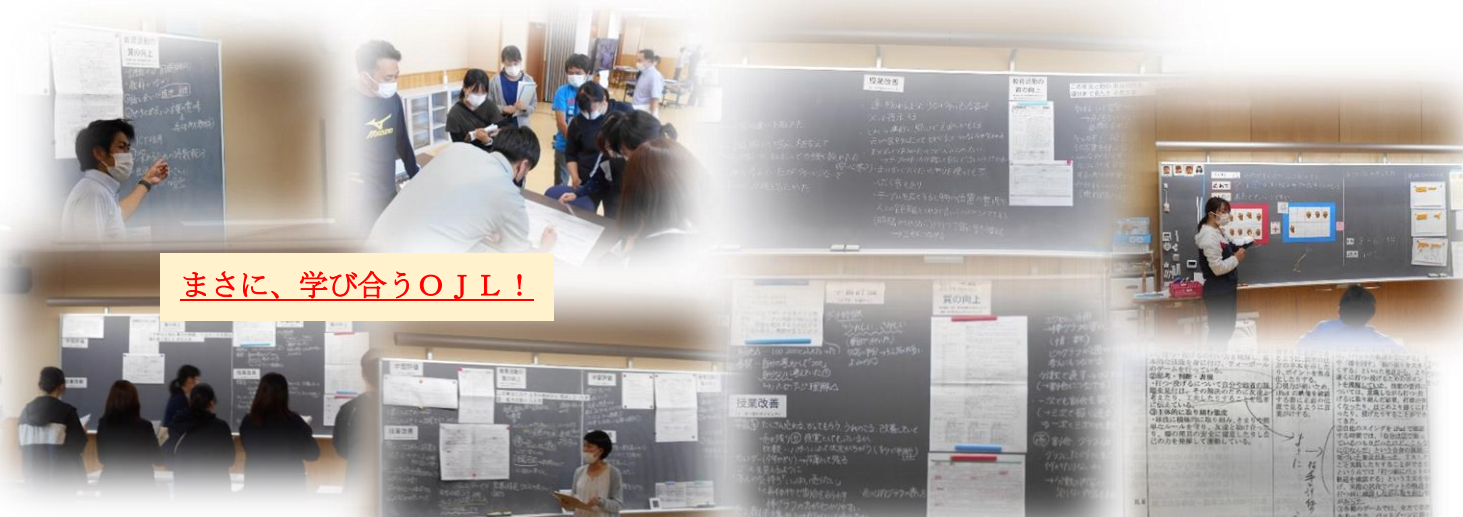
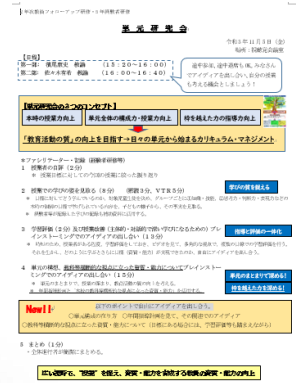
総合的な向上を図っていく!!

初任者研修、フォローアップ研修や5年経験者研修等の研究授業後に単元研究会を行っている。この単元研究会への参加については任意であり、学びたい教員が参加し、途中の出入りもOKとし、自由な雰囲気で行なうことを大切にしている。

これまでの事後研究会の課題点として、中央教育審議会答申（H28. 12）では、「授業研究会が一時間、一時間という狭い範囲に留まっている」という問題点を指摘している。つまり、狭い視野で授業研究会を行うのではなく、「単元のまとまり」を考えて研究していくことが、結果として教員の資質向上にもつながるとはっきりと指摘している。また、学習指導要領では、①「複数の視点による観点別学習状況の評価」、②「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善という視点も明確にしている。これらが、一つ一つ異なる場所、時間で行われることは、実に時間ももったいない。

したがって、着実な学習指導要領の実施をするために、観点をしっかりと網羅した形で、以下のように取り組んできた。

- ①授業者自評（2分）
- ②授業での学びの姿を見取る（学びの記録を黙読3分・VTR8分）
 - ★学びの事実を捉える力を高める。
- ③学習評価及び授業改善（15分）
 - ★指導と評価の一体化を図っていく力を高める。
- ④単元構想、教科等横断的な視点に立った資質・能力について（15分）
 - ★単元の構成力、枠を越えた力等の単元構想力を高める。

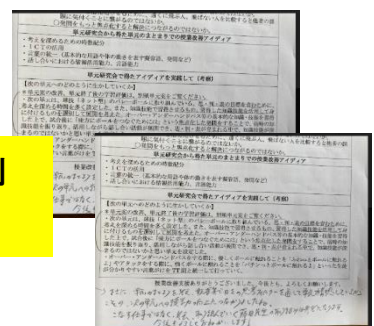


まさに、学び合うOJL!

授業者だけでなく、
参観者も指導力・単元構想力アップ!
自分の日々の単元案等にも生かす!

アイデアを生かしながら、その後の単元に向き
合う、学習評価をする! (全ての業務に連動!)

**単元研究会の実践報告書からの事例
について、一部ご紹介します。**



日々の実践者の感想

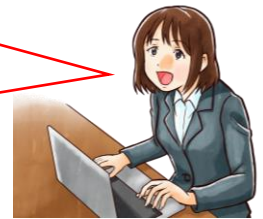
単元案を作成した授業に関して、自分の指導内容のねらいも明確になったので、作成しなかった授業に比べて、「授業のやりやすさ」を感じました。また、生徒も発言が活発になった気がします。



評価をしっかりと行うことができず、学校で設定されていた学習評価の時間で「やる！」と決められるのでありがたいです。



昨年度は単元案の作成に取り組めていなかったのですが、今年度は頑張るぞという気持ちで取り組んできました。単元案を作ることで目標が明確にでき、達成のための展開についてもよりしっかり考えられたように思います(いきあたりばったり、、、のようなことがなくなった気がする)。もっと早く取り組んでいればと今年の自分に言いたいです。



単元案や単元配列表を活用したことで、迷わず単元を展開することができ、自分自身が授業の見通しをもてるので、教科の準備等、考える時間が減りました！！



単元ごとに学習評価を行ったことで、個別の指導計画の評価に時間がかからなくなりました。大変な評価の時期、すぐに、終わりました！！



教科等横断的な視点に立った資質・能力について、意図的に単元案にて実践、評価してみると、生徒への学習効果、こちらの発問等が変わってくるのが分かりました。おもしろい経験でした。今後も深めたいです。



単元案を作成して授業を行うことで、以前より授業の振り返りがしやすくなりました。また、見直し、検討事項もより明確になりました。ただ、各教科等を合わせた指導の評価、大変でした。しかし、単元案を作成して評価を行うと、目標と逸れてしまっていることに気が付くことができます。(授業内容、自分の発問、生徒の学びに向かう姿)



単元案に取り組んだ先生方が

“子ども達の成長・授業力向上・業務との連動・業務スピードの短縮”を実感。
逆に、取り組まないことによる

“活動ありき・授業展開をその都度考える時間の浪費・計画的ではない教材作成の時間的切迫・目標や評価の曖昧さ・連動する業務での苦戦、時間の浪費”等不便さを感じ、「ないと不安」と業務の時間を工夫しながら、単元に向き合い、取り組む先生方が増えてきています！やっている人は損をしない、大事ですね。



事例については、来週から、
毎週更新いたします！

本校が目指す資質・能力の育成 教育の質の向上へ

—教師も学び続けよう—



令和3年度版 授業改善アイデアハンドブック

発行日 令和4年3月25日

発行 福島県立相馬支援学校

* 研究協力・参考文献 東京都立光明学園